

調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

Q1 ご所属の専攻(修了生は在学中の専攻)

地域文化学専攻	2(7%)
比較文化学専攻	3(11%)
国際日本研究専攻	13(48%)
日本歴史研究専攻	0(0%)
メディア社会文化専攻	7(25%)
日本文学研究専攻	2(7%)
その他	0(0%)

無回答 0(0%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

Q2 現在のお立場

学生(修了生を含む)	18(66%)
研究科教員	7(25%)
専攻長以上の役職経験者	2(7%)

無回答 0(0%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

Q3 RT事業(Research Training事業 平成23年度実施)についてお聞きます

1-a 応募の有無

応募した	4(14%)
応募しなかった	23(85%)
<hr/>	
無回答	0(0%)

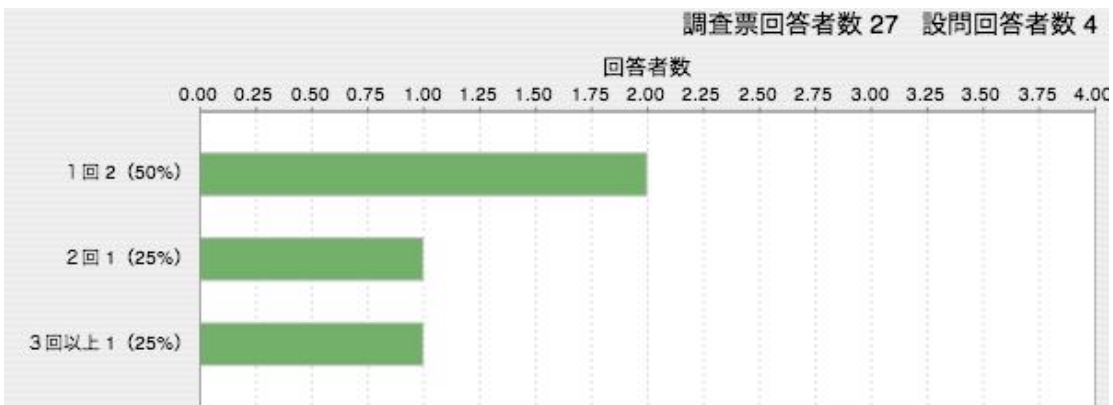


調査票回答者数 27 / 設問回答者数 4

1-b 応募された方にお聞きます

1-b-1 応募回数

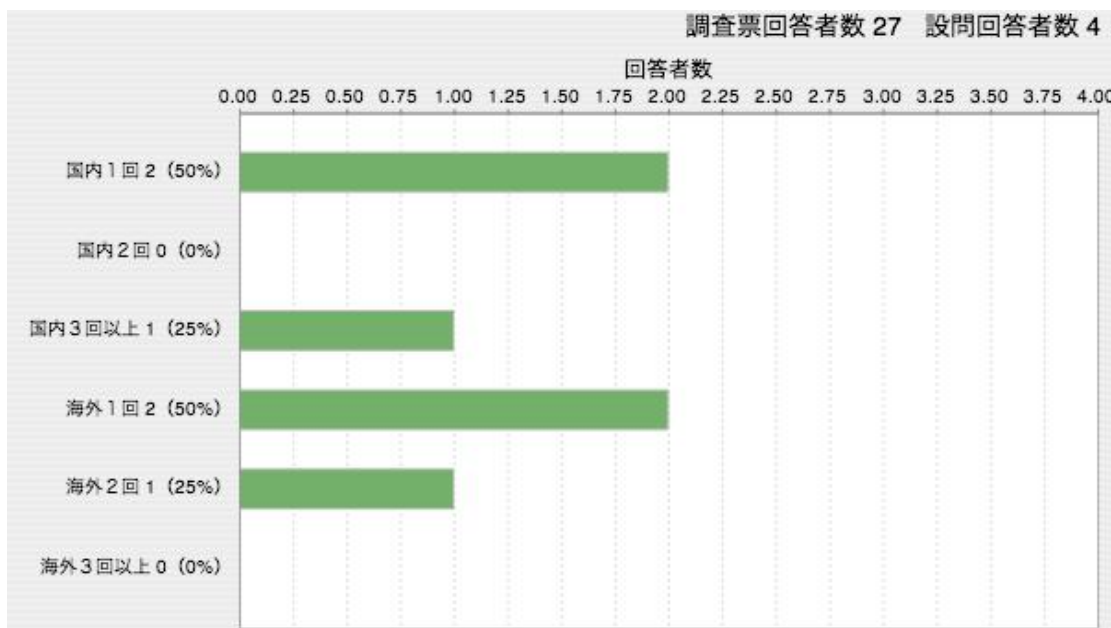
1回	2(50%)
2回	1(25%)
3回以上	1(25%)
<hr/>	
無回答	23(85%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 4

1-b-2 国内外の別(複数回答可)

国内1回	2 (50%)
国内2回	0 (0%)
国内3回以上	1 (25%)
海外1回	2 (50%)
海外2回	1 (25%)
海外3回以上	0 (0%)
<hr/>	
無回答	23 (85%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 4

1-b-3 応募の内容(複数回答可)

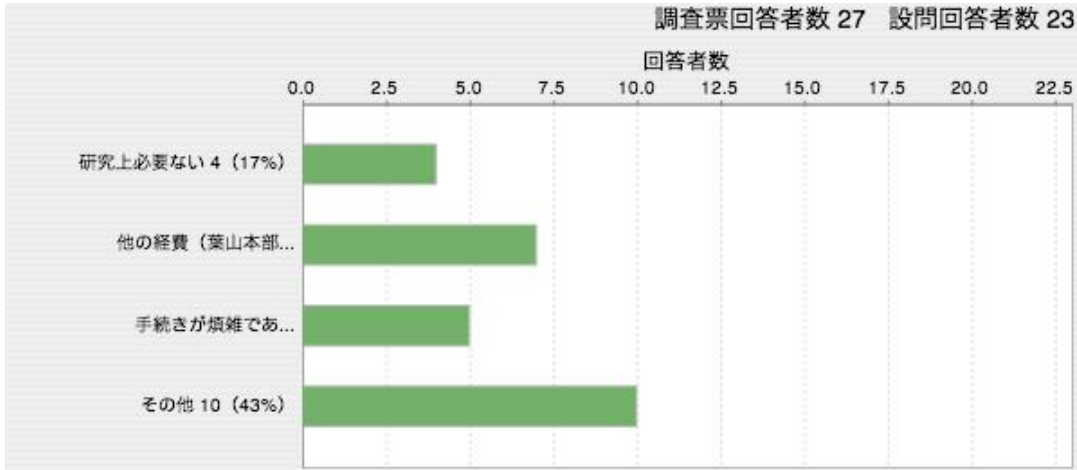
調査活動	4 (100%)
成果発表	0 (0%)
<hr/>	
無回答	0 (0%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 23

1-c 応募されなかった方にお聞きます  
1-c-1 応募しなかった理由(複数回答可)

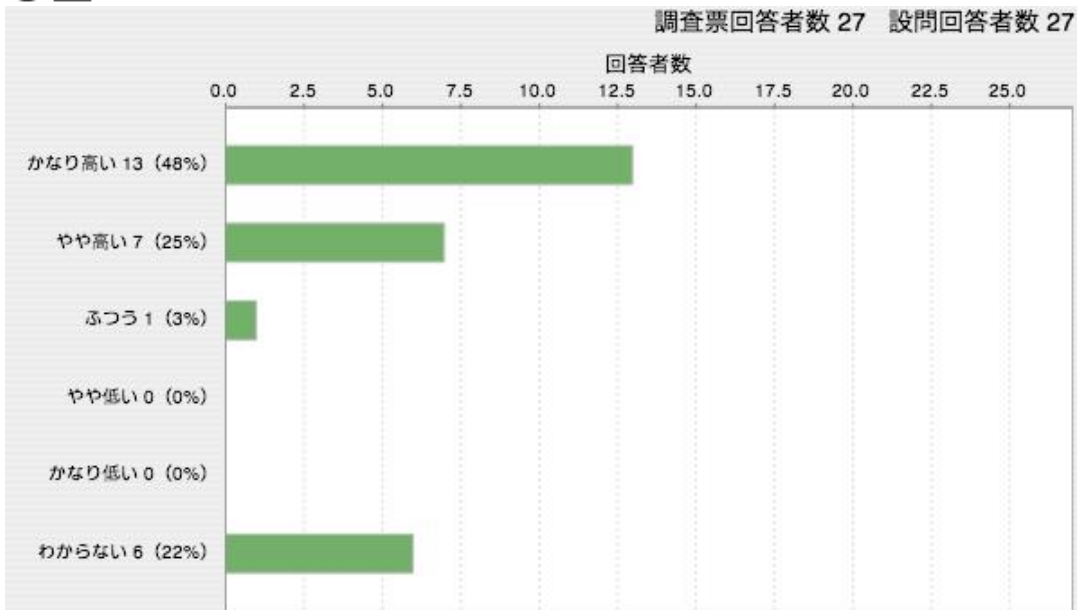
研究上必要ない	4 (17%)
他の経費(葉山本部・専攻内など)を用いた	7 (30%)
手続きが煩雑である	5 (21%)
その他	10 (43%)
<hr/>	
無回答	4 (14%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

1-d RT事業の必要度

かなり高い	13 (48%)
やや高い	7 (25%)
ふつう	1 (3%)
やや低い	0 (0%)
かなり低い	0 (0%)
わからない	6 (22%)
<hr/>	
無回答	0 (0%)



1-e RT事業について、今後への要望など自由にご記入ください

制度自体は是非とも続けてほしいと思います。
その一方、自分(及び同専攻の学生)の研究手法においては、応募条件に合致した形での申請が難しく、利用できずにおります。こういった事情をご周知いただきたいと思っています。
経費の支払いについて、もう少し柔軟であることを望む。
リサーチトレーニング事業は、学生の動機づけや研究交流、研究過程などに肯定的な影響を及ぼすと思います。効果が確認されているのであれば、要望というよりは今後も継続的に行われるように無理のない体制を構築していただけたらよいと考えます。
12月で募集がしめきり、3月ごろの学生の春休みの時期に調査や海外発表ができないことは、この助成システムの欠陥であり、見直すべき点であると思う。たしかに予算の消化の都合上難しいかもしれないが、今後検討していただきたい。
今回、海外での調査活動を実施するにあたり、本事業に参加させていただき、たいへん感謝しています。研究を進めていく上で海外での長期的かつ継続的なフィールドワークが不可欠な地域文化化学専攻と比較文化化学専攻の学生にとって、このような経済的支援を得ることができることは、博士論文の作成にとっても大きな支えとなるものです。今後ともこのような事業が長く継続されることを切に希望しています。
学生にとって必要な事業と言える
現在の在籍者の活用状況は私にはわからないが、申請や報告など、出来るだけ利用しやすい形にして、活用を促してほしいと思う。書類をうまく「作文」すれば良いのはわかるが、形式などが窮屈すぎる感じがした。利用者の立場に立った書類のあり方を考えてほしい。研究そのもののためではなく、書類を作成するのに時間をとられるのは、正直に言って空しいと思う。
かなりいい制度と思います。在学中利用させていただきましたが、そのおかげで調査が出来て博論を順調に書き上げました。
情報を提供されていないので不明である。
PDの就職の難しさを考えると、院生の時の補助だけでなく、常勤ではない不安定な立場の若手研究者へも補助を考えるべき。
私たちの学生時代には考へられなかつた制度ですが、学生にとってはたいへん助かる事業であり、論文作成にもたいへん有効と思ふ。特に海外への調査旅行。
時間的余裕があれば参加したい

調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

Q4 学術交流フォーラム(平成23年度)についてお聞き  
1-a 参加の有無

参加予定・参加した 6(22%)  
参加しない・参加しなかった 21(77%)

無回答 0(0%)

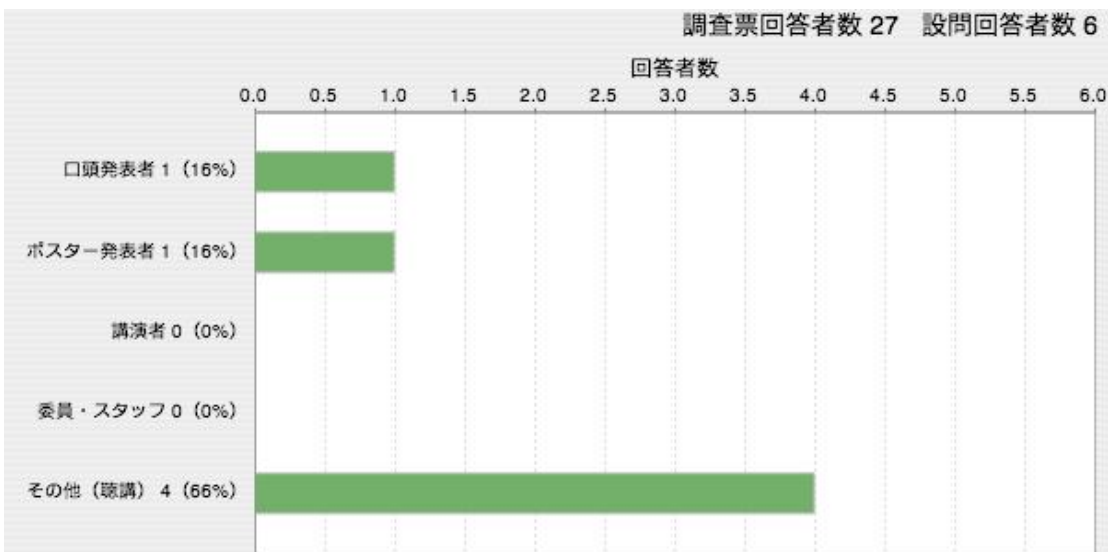


調査票回答者数 27 / 設問回答者数 6

1-b 参加予定の(あるいは参加した)の方にお聞きし  
1-b-1 どのような立場で参加されましたか(複数回答)

口頭発表者 1(16%)  
ポスター発表者 1(16%)  
講演者 0(0%)  
委員・スタッフ 0(0%)  
その他(聴講) 4(66%)

無回答 21(77%)



1-b-2 専攻を超えて、教員・学生が一体となった学術交流を一層進めるため、今年度は学生企画委員が中心となってワークショップを企画いたしました。この試みについてはいかがでしたか。改善点を含めて御意見・御感想をお聞かせ下さい

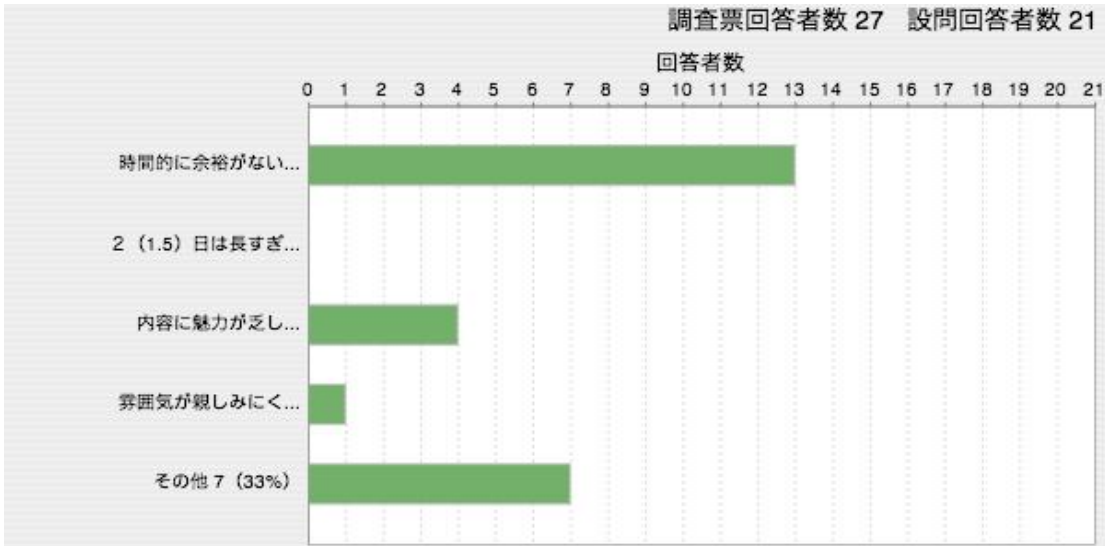
在学中学生企画員をしていましたが、シンポジウムの運営、学際交流、国際的交流などについて勉強しました。ただ、今マンネリ化になっているようで、やり方をもうちょっと考え直した方がいいかと思えます。

調査票回答者数 27 / 設問回答者数 21

1-c 参加されない(あるいは参加されなかった)方にお聞きします

時間的に余裕がない	13(61%)
2(1.5)日は長すぎる	0(0%)
内容に魅力が乏しい	4(19%)
雰囲気が親しみにくい	1(4%)
その他	7(33%)

無回答 6(22%)

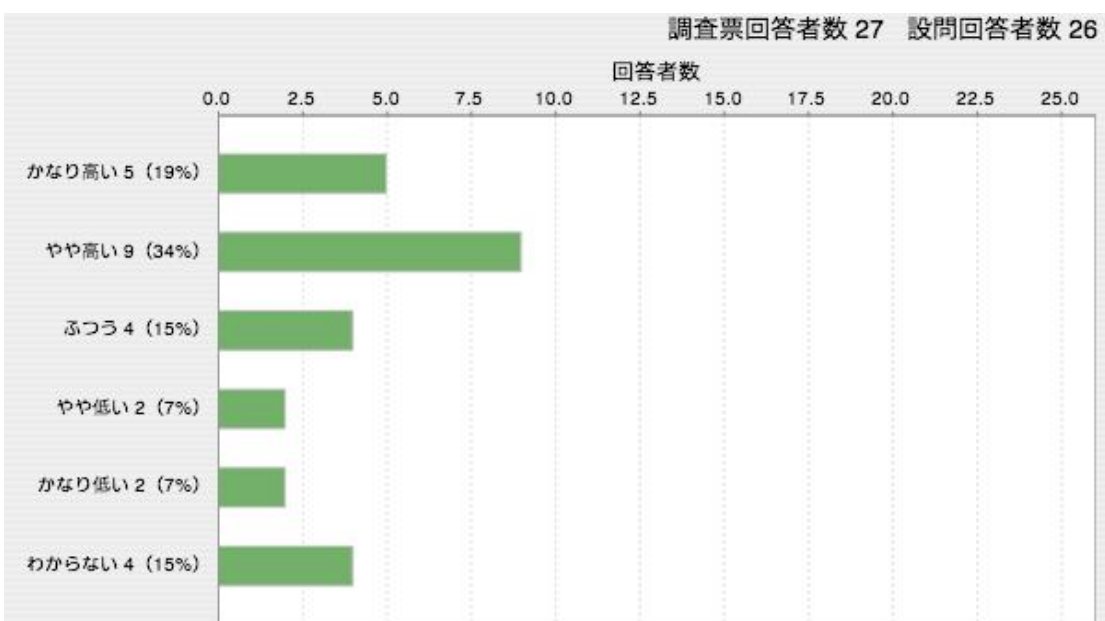


調査票回答者数 27 / 設問回答者数 26

1-d 学術交流フォーラムの必要度

かなり高い	5(19%)
やや高い	9(34%)
ふつう	4(15%)
やや低い	2(7%)
かなり低い	2(7%)
わからない	4(15%)

無回答 1(3%)





1-e 今後への要望など、本事業について自由にご記入ください

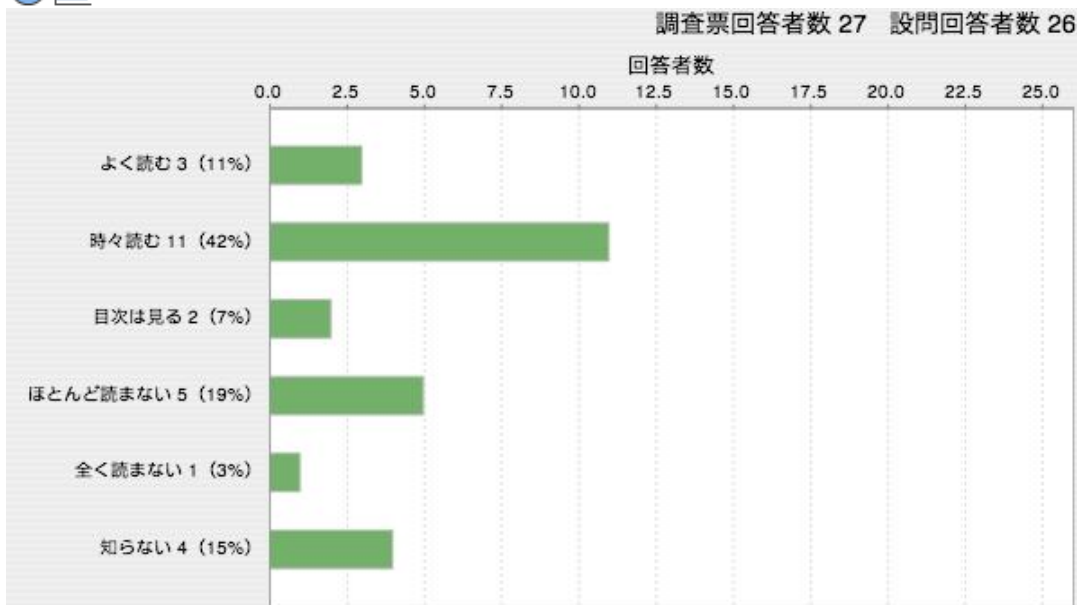
院生自体が減少しており、負担が重くなっているように思います。
他分野の研究者と交流する有意義な会だと思えます。またヒューマンネットワークを広げる数少ないチャンスでもあるので名刺交換的な場を時間として設けるのもよいのでは？と個人的に思えます。
ない
とくになし
メリットを感じる学生、教員は取り組めばいい。そうでない者に強制するのは望ましくない。
今は仕事や家庭の事情におわれていて、参加しない、或いは参加出来ない状況にあるが、総研大在籍中にはほとんど参加しており、有意義な経験が出来た。発表者になったことはないものの、様々な発表を聴くだけでも勉強になり、毎年参加するのが楽しみだった。今後も機会があれば参加してみたいと思う。
無くさないで、ぜひ続けてほしいです。
まだ開催されていないものに対してアンケートを取る意義が不明である。
修了生への告知はないので、今日まで日文研での開催であることを知らなかった。知っていれば、予定に入れていた。修了生を介しての告知にもっと工夫が必要ではないか。
学術交流フォーラムは総合研究大学院大学の特徴でもあるので、是非継続してほしい。

調査票回答者数 27 / 設問回答者数 26

Q5 『総研大文化科学研究』(年刊)についてお聞きしま  
1-a 活用度・認知度

よく読む	3 (11%)
時々読む	11 (42%)
目次は見る	2 (7%)
ほとんど読まない	5 (19%)
全く読まない	1 (3%)
知らない	4 (15%)

無回答 1 (3%)

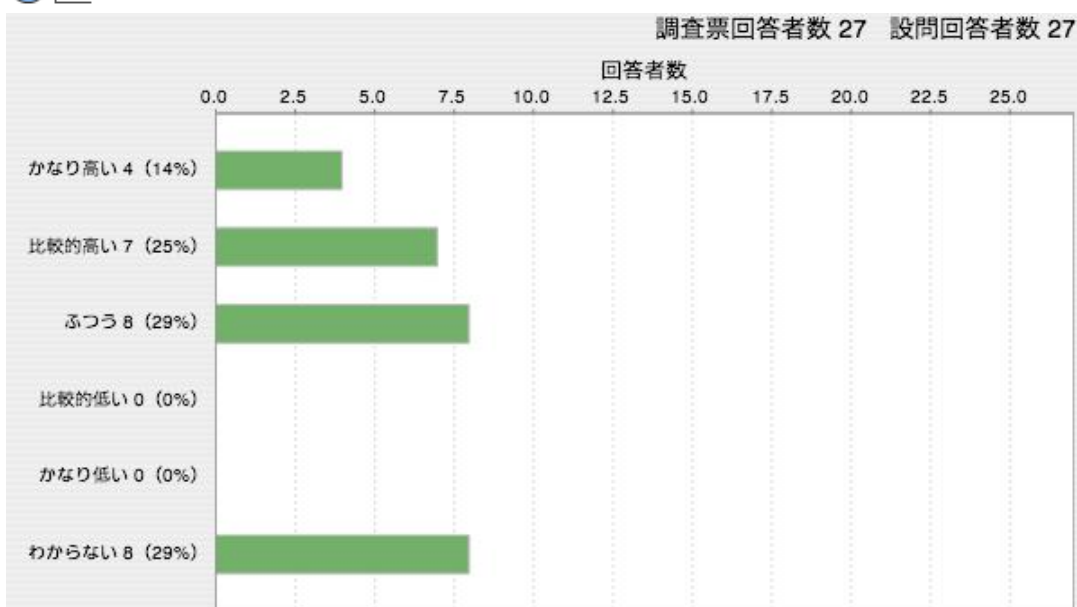


調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

1-b 収録論文などの水準

かなり高い	4 (14%)
比較的高い	7 (25%)
ふつう	8 (29%)
比較的低い	0 (0%)
かなり低い	0 (0%)
わからない	8 (29%)

無回答 0 (0%)



調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

1-c 投稿・採択

1-c-1 これまで本誌に投稿されたことがありますか

ある 4 (14%)  
ない 23 (85%)

無回答 0 (0%)

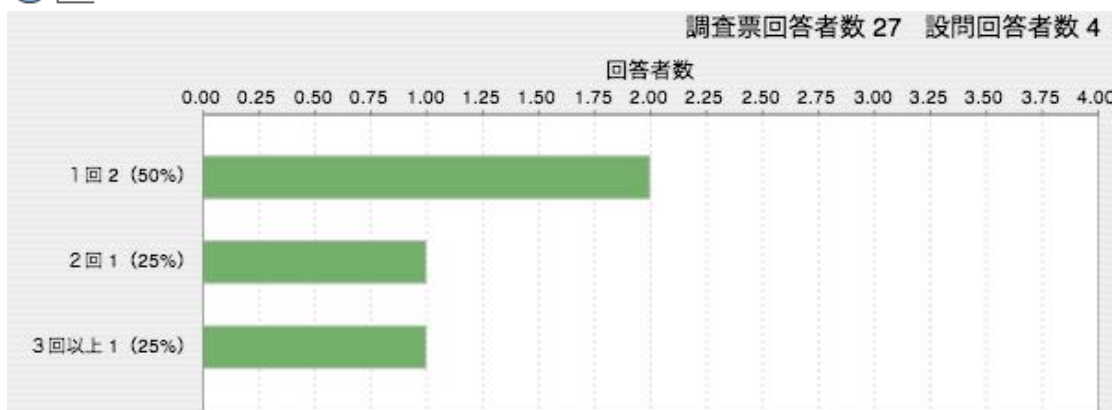


調査票回答者数 27 / 設問回答者数 4

1-c-2 「ある」と答えた方にお聞きします。投稿回数 (採択・不採択を問わない。投稿中を含む)

1回 2 (50%)  
2回 1 (25%)  
3回以上 1 (25%)

無回答 23 (85%)



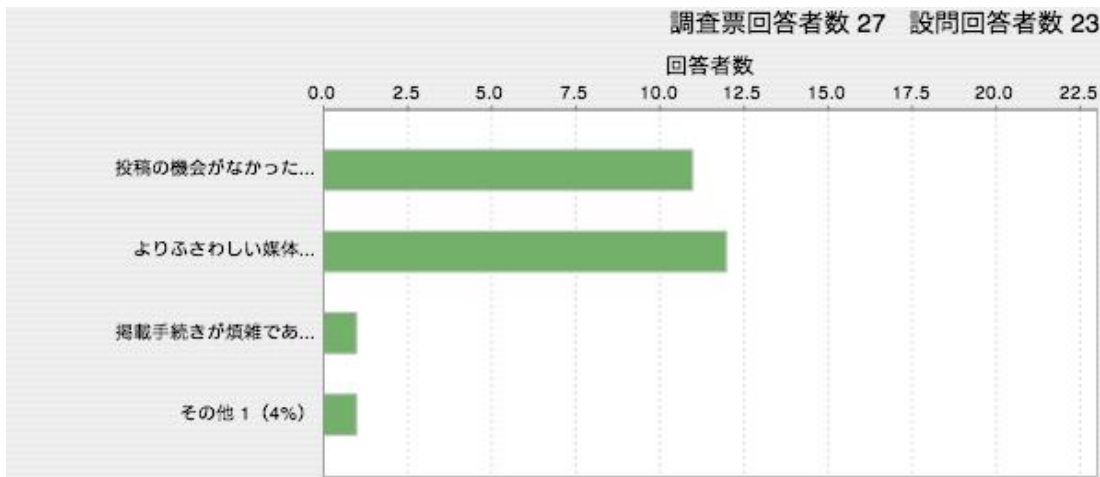
調査票回答者数 27 / 設問回答者数 23

1-c-3 「ない」と答えた方に、その理由をお聞きします(複数回答可)

投稿の機会がなかった	11(47%)
よりふさわしい媒体が他にある	12(52%)
掲載手続きが煩雑である	1(4%)
その他	1(4%)

---

無回答 4(14%)



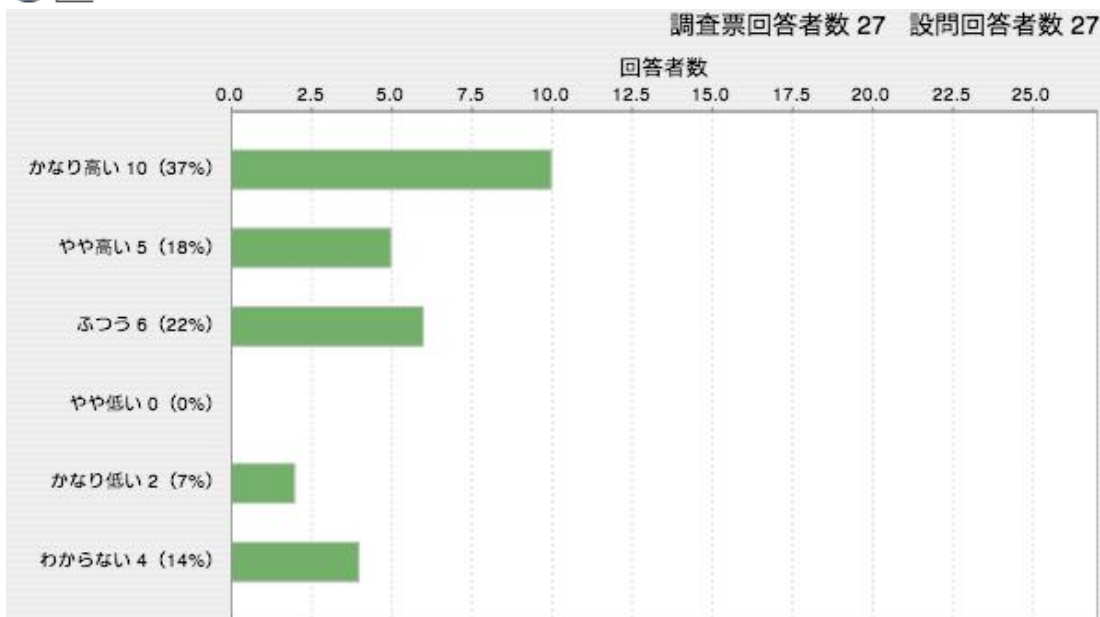
調査票回答者数 27 / 設問回答者数 27

1-d 『総研大文化科学研究』の必要度

かなり高い	10(37%)
やや高い	5(18%)
ふつう	6(22%)
やや低い	0(0%)
かなり低い	2(7%)
わからない	4(14%)

---

無回答 0(0%)



1-e 『総研大文化科学研究』について、今後への要望など自由にご記入ください

学生が研究成果を投稿する、研究に触れる場として必要だとおもいます。
論文は学会論文雑誌が重要という見方が強いと思われませんが、総研大文化科学研究も先と同等という ような明示(学生にとって何かインセンティブのようなもの)があるとよいと思います。すると投稿数も増え るのかもしれませんが。
今後もこのままの体制を続けて欲しい。(査読の体制は非常によいと思うので)
『総研大文化科学研究』には、1度、投稿させていただきました。投稿論文に対する査読もきちんとしてい ただき、たいへん勉強になりました。また、掲載論文への反応なども知らせていただくなど、読んでいただ いた方の反応を知ることができることもたいへんありがたいです。学生が手軽に投稿できる身近な学術 雑誌として、今後とも継続されることを希望します
論文誌的な性格より広報的な性格が重視されるべきと思われる
メジャーな学会誌等に比べて、字数などの制限もゆるめで表も載せやすかったので、在籍中に一度投稿 し、採用してもらって感謝している。院生にとっては研究発表の場が多いほうが良いので、今後とも充実 させてほしい。ただ、要旨の英訳は、私は自分では作れなかったので(いつも身内に作ってもらってい た)、そういう投稿者へのサポート体制がほしいと思っていた。修了後は投稿募集の情報も入らないの で、残念に思う。
投稿したことがありませんから具体的な意見が述べられませんが、ただ、この雑誌をもっと認知度が高い 雑誌にしてほしいです。基盤機関ではなく総研大のものですから。
たとえば通常の学会誌であれば、関連学会の学術大会(年会)時に新刊を発行・販売などでその存在が 周知される。なので『総研大文化科学研究』も、新刊発行に相当する更新のお知らせを周知させるくふう が必要と思われる。
海外にいたので、それを読む機会がすくない。
目次だけでもメールで送ってほしい。

Q6 事業全般について、今後の必要性・方向性など、ご意見を自由にお書きください。

ない
予算の関係上、やむを得ないことかと思いますが、RT事業を活用した国内外での調査について、年度をまたいでの利用を可能にいただけるとありがたいです。年度末、もしくは年度初めに調査の対象となる行事や儀礼などが実施される場合もありますので、ご検討いただければありがたいです。
可能ならば、自由裁量経費として専攻に分配してほしい。
研究科の学生の研究および学位取得を活性化しうる有意義な事業と存じます。今後のますますのご発展を祈念いたします。
総研大の特色を維持するためにも、3つとも必要な事業だと思う。今後も院生の幅広い活動のために、また院生の視野を広げ体験を豊かにするために、活かされていくように願っている。
事業の運営についていろいろ考え方、やりかたがあると思いますが、是非やり続けてほしいです。
修了生ですが、必要とあらば可能なかぎり協力しますので、どうぞご連絡ください。
修了生には、ほとんど情報がこないのだが、外部広報のためには、こうしたルートも考慮に入れるべき。「総合研究大学院大学って何やってる所なんですか」と聞かれるたびに残念に思う。